

謁見式

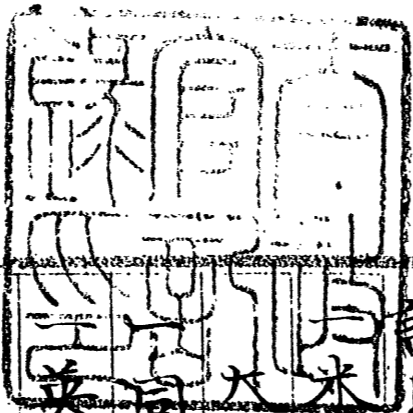
全

函	二十 五架 上	一册	第 十 類 依 本
---	---------------	----	-----------------------

国立公文書館

分類	
排架番号	2 A
	33-6
	① 322

謁見式目次



米國大統領ノ謁見礼式及ニ謁見ノ節大使ノ演述并ニ

大統領ノ答辞

同大統領ノ告别ノ節大使ノ演述并ニ大統領ノ答辞

英國女皇ノ謁見礼式及ニ謁見ノ節大使ノ演述并ニ女

皇ノ答辞

一佛國大統領ノ謁見禮式及ニ謁見ノ節大使ノ演述并ニ

大統領ノ答辞

一白國帝ノ謁見礼式及ニ謁見ノ節大使ノ演述

一蘭國帝ノ謁見礼式及ニ謁見ノ節大使ノ演述并ニ帝ノ

答辞

一日國帝ノ謁見礼式及ニ謁見ノ節大使ノ演述并ニ帝ノ

答辞

一 魯國帝へ謁見礼式及て謁見ノ節大使ノ演述并ニ帝ノ
答辭

一 丁國帝へ謁見ノ節大使ノ演述

一 瑞典國帝へ謁見ノ節大使ノ演述

一 伊國帝へ謁見ノ節大使ノ演述并ニ帝ノ答辭

一 澳國帝へ謁見ノ節大使ノ演述

一 瑞西國大統領へ謁見ノ節大使ノ演述

以上

亞米利加大統領へ謁見礼式

明治五正月廿五日晴十二字大副使ハ衣冠書記官ハ直垂
ヲ穿テ皆帶劍シテ書記官大統領公邸白殿ニ至リ玄關ヨ
リ登階ス階ノ左右ニ巡捕吏數十名整列シテ立テリ使節
以下先ツ青堂ニ入ル時ニ大統領、グラントハ副統領、コル
ファツクス及ヒ國務卿以下諸官負ト東堂ニ入り堂ノ南
中央ニ坐ヲ占ム國務卿、ワイシユハ森辦務使ト共ニ青堂
ニ入来リ大副使以下ニ面接シ畢テ自ラ大使ノ手ヲ把テ
東堂ニ誘フ副使以下其後ニ隨行シテ進ミ順序ヲ以テ大
統領ノ右ニ整列ス此時ワイシユハ使節ヲ大統領ニ引接
ス唯互ニ磬折スルノミ握手ノ礼ナシ次ニ其左方ニ羅列
スル文武諸官長ニ對接シ畢テ大統領ニ半向テ演書ヲ披
ヒテ之ヲ讀ミ我 天皇陛下ノ國書ヲ進呈スルノ我等ニ

於テ無限ノ光榮ナリト謂フニ至テ書記官進テ御國書ヲ
大使ニ出ス大使之ヲ大統領ニ渡ス大統領受テ直ニ、フイ
シユニ致ス大使又其演書ヲ續讀シ畢ル大統領曰テ其
答文ヲ讀ム一回然後自ラ其諸官負ヲ大副使以下ニ引接
ス大使又副使以下ヲ彼ニ引接シテ且ニ答礼ヲナシ畢テ
解列シテ談話傾刻後大統領大副使以下ヲ導キテ白堂ニ
入り其夫人及ヒ國務官負等ノ細君ニ引接ス然後使節出
殿歸館ス是日所會ノ者ハ内外事務局大藏民部ノ長官其
外ハ海陸ノ諸將帥ナリ午後四時副統領議長及ヒ各國欽
差官負來訪ス大副使書記官盡ク正服シテ之ヲ接待ス談
數刻ニシテ散ス

亞米利加合眾國大統領ハ謁見大使演舌

我 天皇陛下大業ヲ中興シ國政ヲ修整セシヨリ文明各
國ノ成績ヲ知り且外國交際ノ友誼ヲ一層親密ナラシメ
ント欲シ今般我等ヲ特命全權使節トシテ結盟ノ各國ニ
派出セララル我等乃首トシテ貴邦ニ来リ今大統領ニ拜謁
シ我 天皇陛下ノ國書ヲ進呈スルヲ我等ニ於テハ實ニ
無限ノ光榮ナリ奉命ノ主旨ハ粗載テ國書ニ在ルカ如ク
兩國ノ間ニ存在スル所ノ交際貿易ヲ益盛ナラシメン
ヲ貴國政府ニ商量シ以テ我國ノ進歩ヲ輔翼セン
ヲ謀
ルニアリ大統領幸ニ此言ヲ信聽シ我國ノ公利ヲ垂念シ
我等ノ使命ヲ遂ケシメラレシヲ希望ス我等又此期ヲ
以テ大統領ツ安寧ヲ祝シ又我國民ニ代リテ貴國億兆ノ
幸福ヲ祈ル

亞米利加大統領答詞

我合衆國始メテ交際貿易ノ道ヲ開キタル國民ヨリ初メ
トシテ此國ニ使節ヲ派遣セラレシハ我國ハ勿論我在職
中ノ光榮永ク青史ニ垂レン一実ニ我輩ノ欣喜スル所ナ
リ今般御使節派遣ノ御主意上ハ貴國君王ノ才徳ヲ輝カ
シ下ハ諸君奉命ノ職ニ於テ信任ヲ加フル者ト謂フヘシ
夫國民他邦ト相隔離シテ此ノ國權民利ノ學ヲ彼ノ有ス
ル所ニ由ツテ互ニ改革整正シ以テ太平安寧ヲ樂マンニ
ハ歲月ハ去ツテ返ラサル者ナレハ由テ以テ論ニ難シ故
ニ貴國ハ古來ノ一成國我合衆國ハ其開基ヨリ日淺シト
雖モ其政体法制ノ學ハ我先民ヨリ遷移スル者ヲ改革擴
張シテ頗ル見ルヘキ者アリト鳴ラスニ足レリ凡ソ人民

ノ富強平安ヲ益盛ナラシメン一我輩從來ノ實驗上ニ就
テ之ヲ論ズレバ先ツ第一ハ他邦トノ交際貿易ヲ増進シ
製作工藝ノ進歩ニ勉勵ヲ加ヘ四海ノ各地ト往來音信ヲ
便易ニシ他邦ノ遷民ヲ優待シテ其風俗技藝ヲ國內ニ誘
導シ刷印ノ權利人民ノ思慮及内外人民ノ差別ナク宗教
ノ事件ニ自由ヲ附與スヘキ一ニアルナリ今諸君大命ノ
趣意ニ基キ中外人民ノ利益ニ付キ此理論ヲ聽聞セラレ
、一我輩ニ於テ幸甚無窮而シテ我輩ノ尤冀望スル兩國
ノ交際貿易益懇篤盛大ナラン一毫モ疑ヲ容ルヘカラス
且我輩モ其主旨ニ注意盡カスヘシ此ノ次手ヲ以テ我輩
自身へ御懇篤ノ御祝詞ヲモ深ク拝謝スル所ナリ当地諸
君ノ御旅寓ハ御都合耳敷御安樂ナラン一ト察ス願クハ
之ヲ兩國ノ人民ノ情誼ニ及シテ愈懇篤ナラン一ヲ祈ル

明治五年壬申八月十九日米國大統領へ告別ノ節大
副使ヨリ演述左ノ通

天皇陛下ノ欽命ヲ奉シ我國ノ事情ヲ親シク陳述シ是迄
兩國ノ間ニ存在セル交睦ノ情誼ヲ猶モ厚カラシムル様
貴國政府ト商議セン為メ貴國ニ来リシニ貴國政府オヨ
ヒ人民ノ快方アリシヲ以テ容易ニ此意ヲ達スルヲ得タ
リ殊ニ羈留ノ間絶ヘス朝野士庶ノ優遇款待ヲ辱ラシ
ク一般ニ懇親ノ情誼ノ厚キヲ見レハ合衆國ノ人民ハ実
ニ我日本ノ開化ヲ助クルヲ願フノ意衷深ク知ルニ足レ
リ加之貴邦政治風俗ノ美ヲ親睹シテ裨益ヲ得ルハ甚カ
ラス是皆閣下ノ賜ニシテ此ヲ我 天皇陛下ニ奏上セハ
必ス満足アラシク疑ナシ今ヤ政府ノ命ヲ奉シ歐洲ニ渡
航スルノ期ク近キニアレハ辱ク閣下ニ謁シ我 天皇陛

下才ヨヒ國民ニ代リ此謝詞ヲ申述ルヲ得ルハ我輩ノ光
榮何事カ之ニ如シ此序ヲ以テ閣下ノ康寧ヲ祝シ并テ貴
國民庶ノ幸福ヲ祈ル

大統領グラント氏ノ答詞

日本天皇陛下ノ交際使節タル諸君ト分袂スル我曹ノ遺
憾ニ候諸君ノ等級ハ是迄合衆國ニテ引接セシ諸使臣ニ
以スレハ寧モ高貴ノ人々ナルヲ見レハ此國ト日本トノ
貿易ノ通交ヲ懇親ナラシメンコトヲ重大ノ處分ト看做シ
玉フコト判然ナリ諸君モ是迄此通交ヲ萬全ニシテ盛大ニ
進メント著意アリテ既ニ之ヲ實踐スル為メニハ信切ナ
ル好期ニ遭際アリシコト思ハレ候今假令此目的ヲ成就
セザルトモソハ決シテ我方ニ於テ厚誼ニ缺ル所アルヨ

リ生スルトスヘカラス又將來日本ヘ對シ其信ヲ失フコ
トナリトモスヘカラス到底現時貴國銳意ナルト是迄成功
ノ盛運ナルトニテ其目的ヲ達スルニ妨碍有之間敷ト存
候且諸君当地ノ滞在ハ愉快ナリキトノ旨ヲ間キ願ハル
足ニ候我國ノ政体オヨヒ人事ノ交際ハ迥ニ貴國ニ異ナ
ルヨリ或ヒハ裨益トナリ難キ所モアルヘケレトモ之ヲ
見聞シ之ヲ審問スルハ諸君ニ取リテ其効績アリシコト之
ヲ疑フマテモナシ諸君是ヨリ歐洲ニ愉快ヲ得且外國通
交ニ付貴國ノ幸福ヲ無缺ノ金甌タラシムルニ緊要ナリ
トスヘキ諸君ノ目的ヲ前途ニ於テ成業アラシムコト信ス

英國女皇へ謁見礼式

西曆十二月五日午後第十二時二十分前大副使及び書記
 官益田萬信林董三郎ゼネラルアレキサンデルアストン
 等ボッキンクハムパレースノ旅館ヲ發シバツディング
 トン瀛車會所ニ至ル外務卿ロールドグランウィル及び
 シルハルリパークス等來會ス一同女皇ノ乘車ニ乘リ
 十二時十分發輒一時四分ウインドソル城下ニ達ス馬四
 疋引ノ馬車二輛外ニ三疋引ノ車一輛ヲ設ケ我來ルヲ待
 ツ暫時城門ニ達ス女皇ノ親兵隊伍列ヲ正整シ銃ヲ捧ケ
 テ礼ヲ為ス待客ノ間ニ至リ暫時休息ス宮内卿出迎ヒ一
 同ヲ次ノ間ニ誘引ス待ツテ大凡二十分外務卿來リ謁見
 ノ手續等アストンヲ以テ大使ニ告ク是ヨリ謁見ノ席ニ
 進ム女皇遙ニ輿隅ニ坐シ右ニ第二ノ皇子デュークオフ

エデインボルク皇女「ニアトリス」侍坐ス左ニハ外務卿及
 ヒ宮内卿其他近侍ノ武官オ列坐ス此時大使一歩ヲ進メ
 左ノ口上^ス略ヲ述フ右讀リテ國書ヲ女帝ニ手渡ス女皇
 之ヲ外務卿ニ渡シ且大使口上ノ答ヲ認メタル書面ヲ外
 務卿ニ渡ス^{此時女皇ハ口上書ヲ讀スシテ其文ニ曰ス}略
 女皇曰貴國帝王ハ安全ナルヤ大使曰健全ニ候女帝曰当
 國ノ滯留ハ興アリシヤ否大使曰貴國政府及ヒ人民ノ懇
 遇ヲ蒙リ各處ヲ巡覽シ裨益ヲ得ルハ少カラス甚タ快暢
 ノ思ヒタ^ク為セリ女帝第二ノ皇子「デユーク」エデインボ
 ルクヲ指シテ曰彼前年貴國ニ遊歴セシ時貴國政府ヨリ
 格別ニ懇親丁寧ナル待遇ヲ蒙リシ由我ニ於テモ深ク謝
 スル所ナリト話畢テ一同三度指礼ヲ為シ後歩シテ退席
 ス是ヨリ別席ニ於テ響應アリ外務卿ハ別ニ要務アリト

テ臨席シカタキ旨ヲ告ク此席ニ列シ接遇セルモノハ多
 クハ女皇近侍ノ武官ナリ右畢テ第三時二十分前發軔同
 四時十五分前倫敦ニ歸館ス

壬申十一月五日 細韃子ハ百五十七日ニ第一字「ウインツ
サルカスソルニ於テ女皇謁見ノ節口上

我天皇大業ヲ中興シ國政ヲ修整セシヨリ外國ノ交際ヲ
シテ一層親密ナラシメンコトヲ欲シ特ニ我等ヲ特命全權
使節ニ任シ陛下ノ朝廷ニ至ラシメ今日陛下ノ引接ヲ辱
フシ面タリ我天皇ノ手書ヲ拝呈スルコトヲ得ルハ我等ニ
於テ無限ノ光榮ナリ仰キ願ハクハ尔後兩國ノ交誼益厚
ク益固ク天地ト共ニ渝ルコトナカラシメテ我等在田ノ際
親シク貴國文明強盛ノ實ヲ睹其利ヲ得ルコト多ク又陛下
ノ政府及ヒ國民ヨリ受ル所ノ懇遇ニ少カラス我ゴロア
ラスシテ此國ヲ去ルヘキヲ以テ再ヒ陛下ニ謁見スルノ
期ナキニヨリ此序ヲ以テ謹テ其謝詞ヲ述ヘ兼テ陛下ノ
壽昌ヲ祝シ奉リ將タ貴國ノ安寧ヲ祈ル

女皇ノ答辭

天皇陛下ニ於テ西國ノ間ニ存在スル友誼益固ク益厚ク
渝ラサルヲ欲シテ特ニ卿等ヲシテ之ヲ予ニ傳ヘシメ
玉フ其誠意感悅スル所ナリ卿等歸國ノ上ハ君上ニ傳ヘ
ラルヘシ予ニ於テモ極メテ陛下ノ希望シ玉フ所ニ同意
ナリト陛下ノ善政ニテ貴國弥繁栄シ随テ兩國ノ貿易亦
擴充セン予ノ切ニ願フ所ナリ將來日本ノ政務ハ其方
向將ニ西教ヲ奉スル諸國民ノ貴重ヲ得ルニ至ルヘキヲ
信ス

佛國大統領へ謁見礼式

西曆十二月廿六日午後第一時十五分大統領ヨリノ警衛
隊トシテ重騎兵三十騎來リ旅館ノ外ニ伍ヲ正フシテ待
ツ且使節一同ノ車三輛政府ヨリ送ルコンマングントシ
アノワン騎兵ノ隊長ヲ誘引シ使節ニ謁セシム使節之ニ
謝ス礼節役ヲツイエデコンシニ次官モラーール等モ來ル
大副使中辨務使鮫島尚信書記塩田三郎池田政懋コンマ
ングントシアノワン等倍從二時十五分前發車ス凱歌門ノ
傍ヨリシアンセリゼヲ下リ大統領ノ宅ハレーデエリセ
ニ達ス門ノ内外ニ兵隊伍列ヲナシテ警衛ス我車ノ來ル
ヲ見テ軍鼓ヲ鳴ラシ銃ヲ捧シテ礼ヲナス玄關ヨリ右手
ノ一間ニ通り暫時憩フ是ヨリ左手ノ一間ニ入ル礼節役
日本帝ノ使節ト呼フ蓋シ大統領ニ我來レルヲ奏スル也

大統領ハ八口ニ對スル奥隅ニ立チ右ニ陸軍卿外務卿日
本在田ノ公使ウイトレノ等ヲ立タシメ後ニ警衛隊ノ号
令官ヲ立タシム大使先ニ進ミ副使之ニ從フ塩田書記大
使節ノ傍ニアリ大使口上ヲ讀ム右畢テ大使副使等ヲ一
々大統領ニ紹介ス大統領モ亦傍ニアル諸省ノ卿等ヲ引
合ス續ヒテ大統領自ラ細君ヲ迎ヘ使節ニ引合ス暫時雜
話アリ話終リテ一同大統領及ヒ細君ニ暇乞ヒ後歩シテ
退ク外務卿ハ玄関マテ見送ル礼式前ノ如ク重騎兵我車
ノ前後ヲ警衛シテ旅館ニ返ル使節騎兵ノ隊長ヲ引見シ
謝辞ヲ述フ是ヨリ一同礼服ノマ、ニテ外務卿ノ方ニ至
リ一礼ヲ述フ彼其答礼トシテ我旅館ニ來ル

使節佛國大統領ニ謁見ノ節口上書

我天皇夙ニ大業ヲ中興シ益外國ノ交際ヲ親密ナラシメ
ントノ情願ヨリ特ニ我曹ヲ全權使節ニ命シ閣下ニ拜遇
セシメラル我曹茲ニ此大命ヲ奉ヒ恭シク天皇ノ親書ヲ
閣下ニ奉呈シ天皇ノ期望スル所ハ貴國ト我國トノ交誼
ヲ永久ノ懇篤ニ進ムルニアルヲ申陳シ又我天皇ノ特ニ
閣下ノ徳義ヲ景慕スルノ至情ヲ親シク閣下ニ面稟スル
一ヲ得ルハ我曹使命ヲ奉スルノ榮ニ於テ寂モ光輝ヲ増
スニ足ルヘシ幸ニ此序ヲ以テ閣下ノ安康ト貴國ノ幸福
ヲ祈ル

佛國大統領答詞

貴國皇帝諸君ノ如キ拔羣有功ノ人ヲ特命欽差トシ我國

ニ派出セラレシハ特ニ我國ヲ親愛セラルルノ意深キニ在
ルノ證ナラント我政府一同欣喜スル所ナリ聞ク貴國近
頃大ニ國制ヲ一変シ趨ル開化ノ域ニ進マントスト是レ
又我等ニ在テ深ク欣賀スル所ニシテ願ハクハ其永續シ
テ益進歩アラシムヲ殊ニ貴國ハ東方諸州中ニ在リテ東
モ天工人造ノ産物ニ富ミ極テ豊饒ノ國ナリト聞ク我國
モ亦貿易盛大ノ國ナレハ將來共ニ互市ノ利ヲ擴充シ西
國人民ノ交情益親密ニ至ラント別ノ企望ス我政府一統
諸君我國滞在愉快ニ消光アラシムヲ希フニヨリ諸君
ノ要スル所伏藏ナク申出玉ヘ喜テ其周旋ヲ為スヘシ

二月十八日白耳義國皇謁見ノ節手續要略

本日第一時式部次官來迎ス第一車ニハ何一等書記田中
戸籍頭接待掛リ、コロネルジュレ、ト乗之但使節ニ先夕
ツ少時皇居前殿ニ至リ式部卿及ヒ外務卿代大藏卿ニ會シ
使節ノ至ルヲ待ツ使節ハ第二車六馬式部大輔及ヒ通辨
栗本二等書記乘之第三車四馬四副使乘之皇宮ニ至リ前
ノ書記官等ト一同正殿ニ至ル到處廊側衛兵侍衛各種ノ
裝ヲ為シテ羅列ス正殿ニ至ル少頃ニシテ王居室ノ扉開
ク大副使書記ト一同前進三楯シテ大使口上ヲ演ス栗本
譯之國皇答詞アリ了テ閑話少頃國皇其后ニ面セントテ
望ム由ヲ云テ退ク夫ヨリ后室ニ赴ク礼皇ニ於ルカ如シ
后ニ閑話アリ良久歸寓送者迎者ノ如シ
親衛兵一大隊皇闕ニ整列シ使節出入毎ニ樂ヲ奏シ銃ヲ

捧ス騎兵ノ前導後擁ハナシ

使節到着届謁見案内等前以テ打合セ都テ一朝ニシ
テ事ヲ了ラフ至テ簡易ナリ

白耳義國帝へ謁見ノ節大使口上

我天皇我大日本國ト白耳義國トノ間ニ今幸ニ存在スル
友誼ヲ益厚カラシメンコトヲ欲シ茲ニ我曹ヲ特命全權使
節トシテ貴朝ニ派遣セラレタリ我曹使命ノ趣ハ今辱ク
陛下ニ咫尺ニ奉リ恭ク捧呈スル所ノ我天皇ノ手書ニ詳
カナレハ陛下能ク之ヲ了知シ玉フ可シ我國ニ於テ使節
ヲ貴朝ニ命セシハ實ニ今日ヲ以テ嚆矢トス我曹特ニ其
選ニアタリ將々貴國ノ敬愛ノ厚キコトヲ見ルハ其幸福光
榮何事カ之ニ如シ我曹又此序ヲ以テ陛下ノ壽昌ヲ祝シ
奉リ且貴國ノ平安ヲ祈ル

明治六年二月廿五日荷蘭海牙府皇宮ニ於テ謁見手
續略

二月廿四日使節海牙府到着直様に著テ報シ兼テ謁見ヲ
乞フ旨ノ書狀國書寫ヲ添外務卿ニ達ス即日明日謁見可
有之条案内状宮内卿某ヨリ差越ス本日第一時式部次官
迎トシテ寓館ニ至ル第一車ニハ先公使ホルクスブルッ
ク氏田邊一等書記第二車伊藤山口第三車木戸大久保副
使皆四馬ニ駕ス第四車大使式部次官ト乘之六馬ナリ第
五車栗本二等書記安藤四等書記先神奈川領事ブアンドル
タツク氏乘之騎兵一小隊宛前導後擁ス宮闕ニ至ル親衛
兵一大隊左右ニ整列シ奏樂捧銃礼ヲ為ス階ニ至ル式部
長官階ノ中央マテ降迎シ指シテ大使其他ノ者ヲ誘テ一
殿ニ至リ外務卿及ヒ諸大臣ニ會ス了リテ正殿ニ至ル戸

者廉ヲ開クヲ待テ三揖シテ進ム國皇ハ殿ノ中央ニ直立
シテ宸坐ナシ諸大臣其後ニ侍立ス大使口上ヲ演シボル
スブルツク此ヲ荷語ニ譯奏ス皇答詞アリボルスブルツ
ク又和語ヲ以テ是ヲ大使ニ傳フ礼畢リ遂巡三拜シテ退
ク但シ進ハ左禮ニヨリ
皇后ハ不在ナレハ謁見ナシ諸大臣等ニ一礼シテ退ク式
部長官階ノ中央マテ送ル初ノ如シ
太子及ヒ兩親王プリンスフレデリック國皇ノ叔父ハ各其家令ニ
宛乞謁ノ書ヲ送ル各其家内ノ日時ヲ以テ歷謁ス別段迎
接ノ者ナシ其宅ニ入ルキ家令出テ是ヲ迎ヘ直ニ正寢ニ
誘ス太子ハ迎楯一礼ノ後直ニ大使ト同榻分坐シテ閑話
良久極テ簡易軟蕩ノ体ナリ兩親王ハ室中ニ正立シテ式礼
ノ口誼ナドアリフレデリックノ方ハ礼了ノ後少頃閑話アリ

荷蘭國皇へ謁見ノ節大使口上

我天皇大業ヲ中興シ政治ヲ一新セラレ夙ニ外交ノ重キ
ヲ察シ特ニ我曹ヲ結盟各國ニ派出セラレ今辱ク陛下ノ
引接ヲ得恭ク我天皇ノ手書ヲ奉スルエト實ニ我曹無上
ノ榮ナリ我天皇ノ志ス所ハ載テ書中ニ在ルカ如ク勉テ
友誼ヲ厚クシ永世渝ルヲ十カランヲ欲スルニ在リ殊ニ
貴國ノ我國ニ於ル其信ヲ通スルハ既ニ三百年ノ久シキ
ニ及ヒ學問術藝貴國ニ資リテ我益ヲ裨クルヲ少カラス
我曹陛下ニ咫尺スルノ期ヲ以テ面タリ其実ヲ上陳スル
ヲ我曹ノ悦ヒニ堪サレ所ニシテ恐ラクハ陛下ノ聞ク
一ヲ喜ヒ玉フ所ナルヘシ我曹又此會ヲ以テ陛下ノ壽ヲ
祝シ且貴國ノ平安ヲ祈ル

同國皇答詞

朕深ク日本皇帝陛下ノ厚礼丁寧ヲ感銘シ使節貴所等ヲ待ツテ歡喜斜ナラス貴國ト荷蘭國トノ交際茲ニ年久シク親睦ナルハ朕常ニ喜フ所ニシテ其交ノ睦シキヨリ貴國ノ術藝ニモ益マル条朕實ニ欣慰ニ堪ヘス尚更ニ自今兩國ノ間愈舊友ノ誼厚カラシク疑ヒナカルベシ朕今其皇帝陛下ノ政府盛美不變太平永久ト陛下ノ幸福トヲ祈ル

右ホルスボルツク氏ノ口述スル所ニシテ荷蘭日本學士ホフマン氏ノ譯スル所ナリト云

明治六年三月十一日日耳曼帝謁見手續概略

三月九日使節伯林府到着本日々值ナレ氏外務省ハ閉局ニ無之由ニ付即日到着ヲ報シ謁見ヲ乞フ旨ノ書狀國書ヲ添外務卿ニ達ス其日外務大輔某寓館ニ来リ外務卿アリンスビスマルク所旁ナレハ一体一晤ノ上謁見可取計筈ナレ氏省ニ從テ明後日直ニ謁見アルヘキ由ヲ述フ翌十日宮内卿某ヨリ明十一日第一時謁見アルヘキ旨案内状来ル本日右時限已前式部次官某同其佐官ト寓館ニ来迎ス須臾ニシテ迎車ニ至ル第一車二馬鮫島公使接待掛リゴロネルライトト乗之第二車二馬田邊何一等書記官式部佐官ト乗之第三車六馬大使式部次官本國公使館権一等書記青木周藏為通辨乗之第四車六馬四副使第五車粟本二等書記杉浦三等書記接待掛リ宮内官負ト乗之第

六車安藤四等書記先日本長崎代領事キニラルト乗之直ニ
宮闕ニ至ル式部長官階上ニ迎候シ大使階ヲ上ル波心階
ヲ下ル中央階上ニ同立シ一揖シテ之ヲ誘フ又一階ヲ上
リ正殿中ニ至ルビスマルク以下諸將相ニ會ス大使書記
官已下ノ名ヲ唱ヘビスマルクニ引合ス畢テ又一室ニ進
ム待ツト良久戸者兩人少シク扉ヲ開キ内ノ様子ヲ候フ
頓テビスマルクト式部長官ト戸内ニ入り良久ニシテ扉
開ク一揖シテ五使節ヲ誘フ青木通辨トシテ從之又扉ヲ
閉ツ大使以下三拜シテ口エヲ演ヘ國書ヲ奉ス帝答詞ア
リ大使ヨリ鮫島及ヒ書記官謁見ヲ乞フ旨ヲ奏ス即チ扉
ヲ開ク鮫島公使五書記式部次官ニ從テハ大使各其名
ヲ奏ス帝一礼アリ了テ書記官ニ對シ閑話數語一同送迎
三拜シテ退クトビスマルク退去セリ式部長官皇后謁ヲ賜ル

ヘキ旨ヲ述フ即チ后宮ニ至ル礼帝ニ於ルカ如シ后ニ書
記官ト數語ヲ接ス英佛兩語帝ト后ト皆室ノ中央ニ直立
扞坐ノ設ナシ數官負女待ノ後ニ羅列スル而已送禮總テ
迎礼ノ如シ謁見ノ節トビスマルクハ居出トビスマルク席セズ途上ハ第一
車前ニ兩騎士前導スルノトビスマルク騎兵ハ侍トビスマルク厩ニシテ護衛
ノ騎隊ナシ闕下ニモ兵衛兵ナシ騎歩ノ警兵行人ヲ制ス
ルノミナリ

翌日東宮ニ謁ス内乞謁ノ書ヲ呈セス又東宮ニ入ルキ家令
誘之五使節謁テリテ大使ヨリ鮫島以下書記官ノ謁ヲ乞
フ爾時鮫島等ハ次ノ間ニ列立ス太子其妃ト共ニ次ノ間
ニ出テ一礼アリ又雜話アリ

外四親王ニ謁ス礼皆太子ニ於ルカ如シ

日國帝謁見ノ節大使口上

我天皇萬世一系ノ宝祚ヲ踐ミ給ヒシニ已來大ニ祖業ヲ恢
張シ政治ヲ修明セラレ益兩國ノ交誼ヲ厚クセンコトニ
注意アリテ我曹ヲ陛下ノ朝ニ來聘ヒシメラレ今日恭シ
ク陛下ノ引接ヲ辱クシ謹テ我天皇ノ手書ヲ捧呈スルノ
榮ヲ得ルコト幸甚ノ至ニ不堪抑陛下ノ一統ノ帝業ヲ立
テ給ヒシコトハ我天皇遠ク東洋萬里ノ外ニアリテ其盛
徳大業ヲ欣慕セララル、ノ誠意ヲ我曹又口カラ之ヲ陛下
ニ稟述スルノ良期ヲ得ルコト我曹ノ光榮ニシテ亦我天
皇ノ悅ヲ所ナリ我曹又此序ヲ以テ陛下ノ壽昌ヲ祝シ又
此帝國ノ平安ヲ祈ル

國帝答詞

貴國天皇陛下獨乙國及て朕ノ身ニ對シテ友誼懇切ノ尊慮
アルコトヲ親ク諸君ノ口頭ヨリ領承シ朕甚ク之ヲ喜悅
ス朕貴國天皇陛下ノ尊憲ヲ認メ從テ諸君ニ答フル所又
同一ノ趣意ニシテ天皇陛下及て其主宰スル繁榮ナル日本
國ト我獨乙國ノ間ニ關涉スル友誼交際往々愈親密ナラ
ンコトヲ希望ス
使節及ヒ隨從諸君我輩下及て朝廷ニ在リテ齊シク満足
アリシコトヲ庶幾ス

魯西亞國帝へ謁見礼式

第一四馬ノ車

式部省補役二人

第二同上

鯨島公使

青木書記官

田中戸籍頭

第三同上

市川四等書記

安藤四等書記

杉浦三等書記

第四同上

栗本二等書記

何 一等書記

田邊 一等書記

ベレスキ 外務省東方掛大丞

第五同上

山口 副使

伊藤 副使

木戸 副使

クートリヤフチエフ 式部大丞

第六六馬

岩倉 大使

ジエレプチヲフ 式部大輔

ゴスケビツチ 通辨官

前馬車側ニ陸軍士官一個警衛ス馬車後四騎ニ騎兵同断

諸馬車宮殿へ入ル時ハ兵士礼式アリ

入口ニ宮殿掛ノ者二個出迎ヒ是ヨリ諸官負二人宛ニ列

シ日本人是ニ同様二人宛列ニ通行ス大使ハ左ニ式部大

輔右ニ宮殿掛ノ者其側ニ通辨官列ニ如茲シテ三殿ヲ通

ス第四殿ニ至リフランスガリチン出迎ヒ大副使及ヒ從

行ノ者ヲ休息所ニ請ヒ茲ニ於テ喫茶ノ礼アリ

暫時休息後ガリチン氏ニ從ヒ白殿ニ請ヒ此處親兵警衛

所ヨリ此殿内ニ於テプリンスリーベン式部及ヒ東方局

頭取出迎フ此ヨリ宮内外務其他諸官負不殘金殿則見

ニ在リ謁見礼全備ノ後皇帝詔ヲ下シ式部卿及ヒ大輔大

使及ヒ副使ヲ此殿ニ請ヒ謁見ノ礼アリ

大副使謁見午後式部大輔從行ノ者ヲ招待シ皇帝へ謁セ

シム

謁見後元ノ休息所へ歸リ響應アリ其饗宴畢リ後前ノ如ク退去ス

諸警衛兵大副使其從行ノ者通行ノ節モ礼式アリ各殿然テ兩扉ヲ開ク

諸負ミナ大礼服ヲ用ユ

魯國帝へ謁見ノ節大使口上振

我天皇兩國交誼ノ益厚カラシムヲ冀望セラレ特ニ我曹ヲ全權使節ニ命シ貴朝ニ來聘セシメラル今日辱ク陛下ノ引接ヲ蒙リ我天皇ノ手書ヲ呈スルヲ得ル其光榮甚タ大ナリトス我天皇ノ所志ハ載セテ其書中ニ在ルカ如クナレハ幸ヒニ陛下ノ其誠意ヲ諒知アラシムヲ願フ我曹又此序ヲ以テ陛下ノ宝運盛昌ヲ祝シ貴國億世ノ久シク其聖徳ヲ賀頌ヒンヨヲ祈ル

魯國皇謁見ノ節挨拶

汝等カ君主日本天皇我魯西亞國トノ隣好ヲ重シシ殊ニ汝等ヲ以テ特命全權使節トシ我此宮廷ニ來聘セシメラル、朕康モ之ヲ嘉ス朕カ次子曾テ汝ノ國ニアリテ辱

ク礼遇ヲ享ケ懇切ノ取扱ニアツカリシハ汝等モ知ル所
ナル可シ

丁抹國帝へ謁見ノ節大使口上

我天皇我大日本國ト丁抹國トノ間ニ今幸ニ存在スル友
誼ヲ益厚カラシメンコトヲ欲シ茲ニ我曹ヲ特命全權使節
トシテ貴朝ニ派遣セラレタリ我曹使命ノ趣ハ今辱ク陛
下ニ咫尺ニ奉リ恭ク捧呈スル所ノ我天皇ノ手書ニ詳カ
ナレハ陛下能ク之ヲ了知シ玉フヘシ我國ニ於テ使節ヲ
貴朝ニ命セシハ實ニ今日ヲ以テ嚆矢トス我曹特ニ其選
ニ當リ將タ貴國ノ敬愛ニ厚キコトヲ見ルハ其幸福光榮何
事カ之ニ如シ我曹又此序ヲ以テ陛下ノ壽昌ヲ祝ヒ奉リ
且貴國ノ平安ヲ祈ル

瑞典國帝ハ謁見ノ節大使口上

我天皇我大日本國ト瑞典那威國トノ間ニ今幸ニ存在ス
ル友誼ヲ益厚カラシメンコトヲ欲シ茲ニ我曹ヲ特命全權
使節トシテ貴朝ニ派遣セラレタリ我曹使命ノ趣ハ今辱
ク陛下ニ咫尺ニ奉リ恭ク捧呈スル所ノ我天皇ノ手書ニ
詳カナレハ陛下能ク之ヲ了知シ玉ク可シ我國ニ於テ使
節ヲ貴朝ニ命セシハ實ニ今日ヲ以テ嚆矢トス我曹特ニ
其選ニ當リ將タ貴國ノ敬愛ニ厚キコトヲ見ルハ其幸福光
榮何事カ之ニ如シ我曹又此序ヲ以テ陛下ノ壽昌ヲ祝シ
奉リ且貴國ノ平安ヲ祈ル

伊太利國帝へ謁見ノ節大使口上

我天皇我大日本國ト伊太利國トノ間ニ今幸ニ存在スル
友誼ヲ益厚カラシメ貿易ヲ益盛ナラシメンコトヲ欲シ茲
ニ我曹ヲ特命全權使節トシテ貴朝ニ派遣セラレタリ我
曹使命ノ趣ハ今日辱ク陛下ニ咫尺ニ奉リ恭ク捧呈スル
所ノ我天皇ノ手書ニ詳カナレハ陛下能ク之ヲ了知シ玉
フナルハシ我天皇中興維新以來使節ヲ貴朝ニ命セシハ
實ニ今日ヲ以テ始メトス我曹恰モ其選ニ當リ特ニ我天
皇友愛ノ情ヲ表シ兩國貿易ノ益盛ナランコトヲ願フノ意
ヲ陛下ニ面奏スルヲ得其幸福光榮何事カ之ニ如シ我曹
又此序ヲ以テ陛下ノ壽昌ヲ祝シ奉リ兼テ貴國ノ平安ヲ
祈ル

伊太利國帝答詞

閣下日本皇帝陛下ニ代リ陳述セラレシ詞工ノ厚意余ニ
於テ満足ニ堪ヘス
閣下ノ君トシ戴ク皇帝陛下ノ賢明ナルヨリ日ヲ追テ進
歩アル日本國ト吾伊國トノ交誼益親密ニ至ランハ是レ
余ノ甚タ悦フ所ナリ
閣下我國ニ來ラレシニ付テハ已ニ巨大ノ有益アル同盟
兩國ノ洪福ヲ受クヘキ実効タラシク將タ皇帝陛下及ヒ
其皇族ノ萬歳且日本國ノ昌平ヲ冀望セリ

澳國帝ハ謁見ノ節大使口上

我曹我天皇ノ命ヲ奉シ特命全權使節トシテ貴朝ニ來聘
シ今日辱ク陛下ニ咫尺ニ奉リ其信書ヲ捧呈シ且兩國ノ
交際ニ捺ク注意シ玉フ我天皇ニ代リテ親ク陛下ノ壽昌
ヲ祝シ奉リ並ニ兩國間友誼貿易ノ益厚ク益盛ナラン
ヲ希望スルノ意ヲ上陳ス將又此重仰ニ膺リ此帝京ニ來
ルノ時ニ方リ恰モ萬國博覽會ノ奉アルニ會シ泰西各國
文明進步ノ様ヲ目撃シ將陛下政府ノ興隆ヲ見ル一實ニ
欣幸ノ至リニ堪エス

瑞西國大統領へ謁見ノ節大使口上

我天皇夙ニ大業ヲ中興シ益外國ノ交際ヲ親密ナラシメ
ントノ情願ヨリ特ニ我曹ヲ全權使節ニ命シ閣下ニ拝趨
セシメラル我曹茲ニ此大命ヲ奉ヒ恭シク天皇ノ親書ヲ
閣下ニ奉呈シ天皇ノ期望スル所ハ貴國ト我國トノ交誼
ヲ永久ノ懇篤ニ進ムルニ在ルヲ申陳シ又我天皇ノ特ニ
閣下ノ徳義ヲ景慕スルノ至情ヲ親シク閣下ニ面稟スル
ヲ得ルハ我曹使命ヲ奉スルノ榮ニ於テ蒙モ光輝ヲ増ス
ニ足ルヘシ幸ニ此序ヲ以テ閣下ノ安康ト貴國ノ幸福ヲ
祈ル